

1. 調査の概要

(1) 調査目的

社会の構造的変化の中で多様化する県民の意識や価値観、ニーズの変化及び行政に対する要望等について把握するとともに、その結果について合理的な分析を行い、「沖縄21世紀ビジョン」に掲げる将来像の実現及び「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」の推進等に役立て、今後の県政運営に広く活用することを目的とする。

(2) 調査の種類と項目

今回は、昭和54年以降、これまで3年又は5年ごとに実施してきた「県民意識調査」(以下、「本調査」という。)に加え、離島のニーズを把握するため、「離島住民特別調査」(以下、「離島調査」という。)を前回に引き続いて実施した。

本調査については、過去調査と時系列比較による分析を行うことが重要であることから、前回(第11回)の調査項目を基本としながら、現在の調査時における社会事情等を考慮した特定のテーマに関する項目として、「こどもまんなか社会の実現」及び「SDGsの取組」を設定した。

離島調査については、本調査に準拠した調査項目を設定するとともに、離島振興対策等の離島特有の課題等に対する取組に関する調査項目を設定した。

【調査項目(本調査・離島調査)】

本調査	離島調査
①基本属性(年齢、性別、職業等)	①基本属性(年齢、性別、職業等)＊
②県民の自己像【問1】	②島民の自己像【問1】＊
③地域とのつながり【問2】	③島(民)の長所・短所【問2】＊
④生活各面の重要度【問3】	④居留意向【問3】＊
⑤生活各面の充足度(満足度)【問4】	⑤生活状態の意識、変化、今後の見通し【問4】＊
⑥県民の価値観【問5】	⑥離島振興施策に対する評価・重点的に取り組むべき施策【問5】
⑦居留意向【問6】	⑦注力すべき県内産業【問6】＊
⑧県(民)の長所・短所【問7】	⑧離島の人口増加対策【問7】
⑨生活状態の意識、変化、今後の見通し【問8】	⑨島の将来に向けて必要だと思うこと【問8】＊
⑩生活状態の希望と現在の状況【問9】	
⑪注力すべき県内産業【問10】	
⑫重点的に取り組むべき施策【問11】	
⑬米軍基地への対応【問12】	
⑭こどもまんなか社会の実現【問13】	
⑮SDGsの取組【問14】	
⑯沖縄県の将来に向けて必要だと思うこと【問15】	

※ 離島調査の＊印は本調査との共通項目を示す

I 概要

(3) 調査設計

【調査設計(本調査・離島調査)】

	本調査	離島調査
母 集 団	県内に居住する満 15 歳以上満 75 歳未満の男女	県内の有人離島(沖縄本島、宮古島、石垣島を除く)に居住する満 15 歳以上満 75 歳未満の男女
調 査 地 点 及 び 標 本 数	225 地点 3,000 人 (注1)	53 地点 700 人 (注2)
抽 出 方 法	層化二段無作為抽出法	本調査と同じ
調 査 方 法	郵送調査(回答は郵送/ウェブにて回収)	本調査と同じ
調 査 期 間	令和6年9月 11 日～10 月9日	本調査と同じ
有 効 回 収 数 (率)	1,671 人(55.7%)	511 人(73.0%)
調査実施及び 分析委託機関	株式会社サーベイリサーチセンター	

(注1) 沖縄県の市町村を北部、中部、那覇市、南部、宮古、八重山の6地域に分類し、原則、地域別に 3,000 標本を人口規模に応じて比例配分した。この場合、地域間の標本数の差が大きくなり、地域別の精度も異なってくるため、人口の少ない宮古地域、八重山地域については、他の地域に比べ2倍の標本数を割り当てるウェイト付きサンプリングのうえ、集計を行った。

(注2) 有人離島(沖縄本島、宮古島、石垣島を除く)のうち、令和2年国勢調査人口が 50 人以上の島を対象とし、人口規模に応じて標本数を比例配分した。調査対象の離島は下表のとおり。

【本調査の対象】

地域	自治体	地域	自治体	地域	自治体
北部	名護市	中部	宜野湾市	那覇市	那覇市
	国頭村		浦添市		
	大宜味村		沖縄市	南部	糸満市
	東村		うるま市		豊見城市
	今帰仁村		読谷村		南城市
	本部町		嘉手納町		与那原町
	恩納村		北谷町		南風原町
	宜野座村		北中城村		八重瀬町
	金武町		中城村		渡嘉敷村
	伊平屋村		西原町		座間味村
	伊是名村				粟国村
	伊江村				渡名喜村
					南大東村
八重山	石垣市	宮古	宮古島市		北大東村
	竹富町		多良間村		久米島町
	与那国町				

【離島調査の対象】

地域	自治体	調査対象の離島	調査対象外の離島 ※令和2年度国勢調査人口 50 人未満 水納島
北部	本部町		
	伊江村	伊江島	
	伊平屋村	伊平屋島、野甫島	
	伊是名村	伊是名島	
中部	うるま市	津堅島	
南部	南城市	久高島	
	渡嘉敷村	渡嘉敷島	
	座間味村	座間味島、阿嘉島、慶留間島	
	粟国村	粟国島	
	渡名喜村	渡名喜島	
	南大東村	南大東島	
	北大東村	北大東島	
	久米島町	久米島	奥武島
宮古 (宮古島除く)	宮古島市	池間島、来間島、伊良部島、下地島	大神島
	多良間村	多良間島	水納島
八重山 (石垣島除く)	竹富町	竹富島、西表島、鳩間島、小浜島、 黒島、波照間島	由布島、新城島(上地、下地)、 嘉弥真島
	与那国町	与那国島	

【過去における県民意識調査の実施状況】

○第1回調査調査期間:昭和 54 年 12 月 20 日～12 月 30 日 標本数:5,000 人(離島特別調査 500 人)
○第2回調査調査期間:昭和 59 年1月 10 日～1月 20 日 標本数:3,000 人
○第3回調査調査期間:平成2年1月 10 日～1月 20 日 標本数:3,000 人(離島特別調査 300 人)
○第4回調査調査期間:平成7年1月 10 日～2月5日 標本数:2,000 人
○第5回調査調査期間:平成 11 年 11 月1日～11 月 30 日 標本数:2,000 人
○第6回調査調査期間:平成 16 年 10 月1日～10 月 31 日 標本数:2,000 人
○第7回調査調査期間:平成 21 年 10 月 16 日～11 月 15 日 標本数:2,000 人
○第8回調査調査期間:平成 24 年 10 月6日～11 月5日 標本数:2,000 人
○第9回調査調査期間:平成 27 年8月 14 日～9月 23 日 標本数:2,000 人
○第 10 回調査調査期間:平成 30 年7月 30 日～9月 17 日 標本数:2,000 人(離島特別調査 500 人)
○第 11 回調査調査期間:令和3年8月 27 日～9月 30 日 標本数:4,000 人(離島特別調査 1,000 人)

※ 第1回から第7回調査までは「県民選好度調査」として実施し、第8回からは名称を「県民意識調査」に改めて実施した。

I 概要

(4) 調査結果の見方

① 集計数値の基本的な見方

- 各調査結果については、原則として、各調査項目の調査数を基数に算定した百分率(%)で表している。なお、小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合がある。また、2つ以上の選択肢を選択できる複数回答の質問では、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- 本文または図表中に引用した質問文や選択肢は省略して表記している場合があるため、詳細は巻末「IV 資料編」中の調査票参照。

② 平均得点

- 本調査の県民生活の重要度(問3)・充足度(問4)で用いている「平均得点」とは、各項目の回答について6つの選択肢を示し、「わからない」という回答以外の各回答項目について、以下のように得点(ウェイト)を与えてその平均を算出したものである。

得点(ウェイト)	5点	4点	3点	2点	1点
重要度(問3)	非常に重要である	ある程度重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない
充足度(問4)	非常に満たされている	ある程度満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	全く満たされていない

③ 加重平均

- 複数回答で1～3位等の順位付けで回答を求める質問で用いている「加重平均」とは、各項目の変数(回答数)を同等に扱うのではなく、1～3位等の順位に応じて一定の重み(ウェイト)を与えてその平均を算出したものである。

得点(ウェイト)	5点	4点	3点	2点	1点
1～5位の順位付け質問	1位	2位	3位	4位	5位
1～3位の順位付け質問			1位	2位	3位

(5) 調査対象者のプロフィール

① 母集団と比較した調査回答者属性の特徴

本調査		母集団 の構成比 (※1)	調査回答者 の構成比
地域	北部	8.7%	9.1%
	中部	43.6%	42.2%
	那覇市	21.7%	21.2%
	南部	18.5%	18.6%
	宮古	3.8%	4.1%
	八重山	3.8%	4.8%
性別	男性	50.3%	42.6%
	女性	49.7%	56.9%
年齢	15～19歳	7.4%	7.8%
	20～24歳	7.1%	5.1%
	25～29歳	7.1%	5.0%
	30～34歳	7.6%	6.7%
	35～39歳	8.8%	7.9%
	40～44歳	9.0%	10.7%
	45～49歳	10.0%	9.2%
	50～54歳	9.4%	10.8%
	55～59歳	8.2%	9.4%
	60～64歳	8.3%	7.7%
	65～69歳	8.5%	10.1%
	70～74歳	8.5%	9.7%

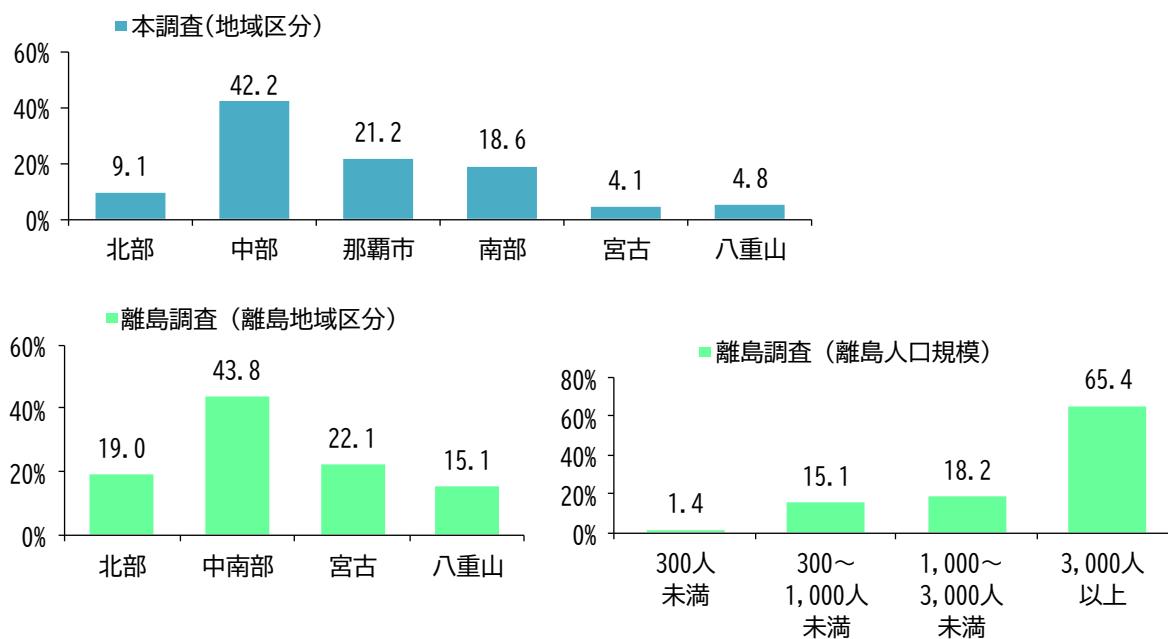
(※1) 令和5年住民基本台帳人口（R5.1.1）における
15～74歳人口の構成比

(参考) 離島調査		母集団 の構成比 (※2)	調査回答者 の構成比
離島 地域	北部	21.6%	19.0%
	中南部	38.6%	43.8%
	宮古	21.0%	22.1%
	八重山	18.8%	15.1%
離島 人口 規模	300人未満	3.7%	1.4%
	300～1,000人未満	16.4%	15.1%
	1,000～3,000人未満	27.7%	18.2%
性別	3,000人以上	52.2%	65.4%
	男性	52.8%	46.2%
	女性	47.2%	53.6%

(※2) 令和5年島しょ別住民基本台帳人口（R5.1.1）における
調査対象離島の総人口の構成比
(年齢別人口未把握のため総人口での構成比を参考値として掲載)

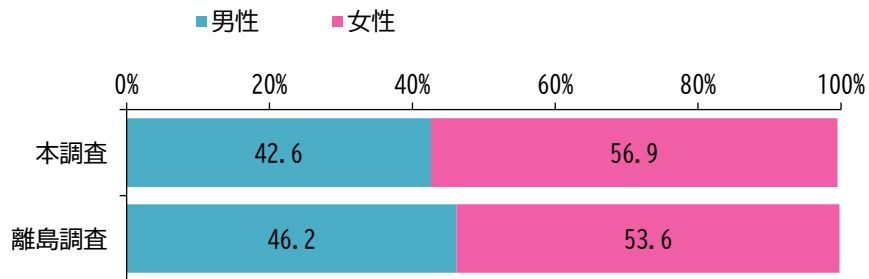
② 調査回答者の基本属性

(ア) 地域

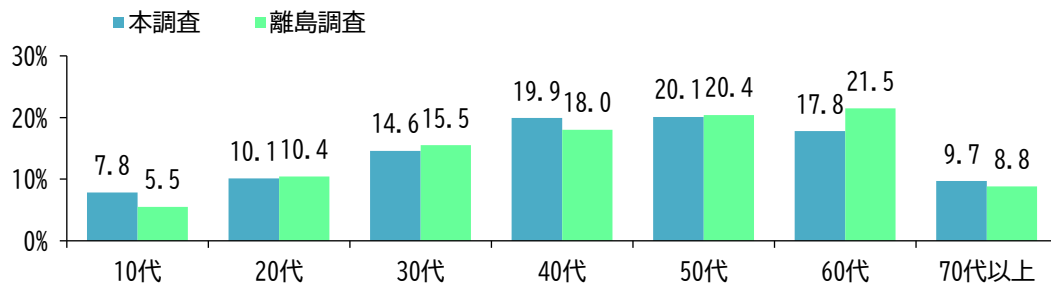


I 概要

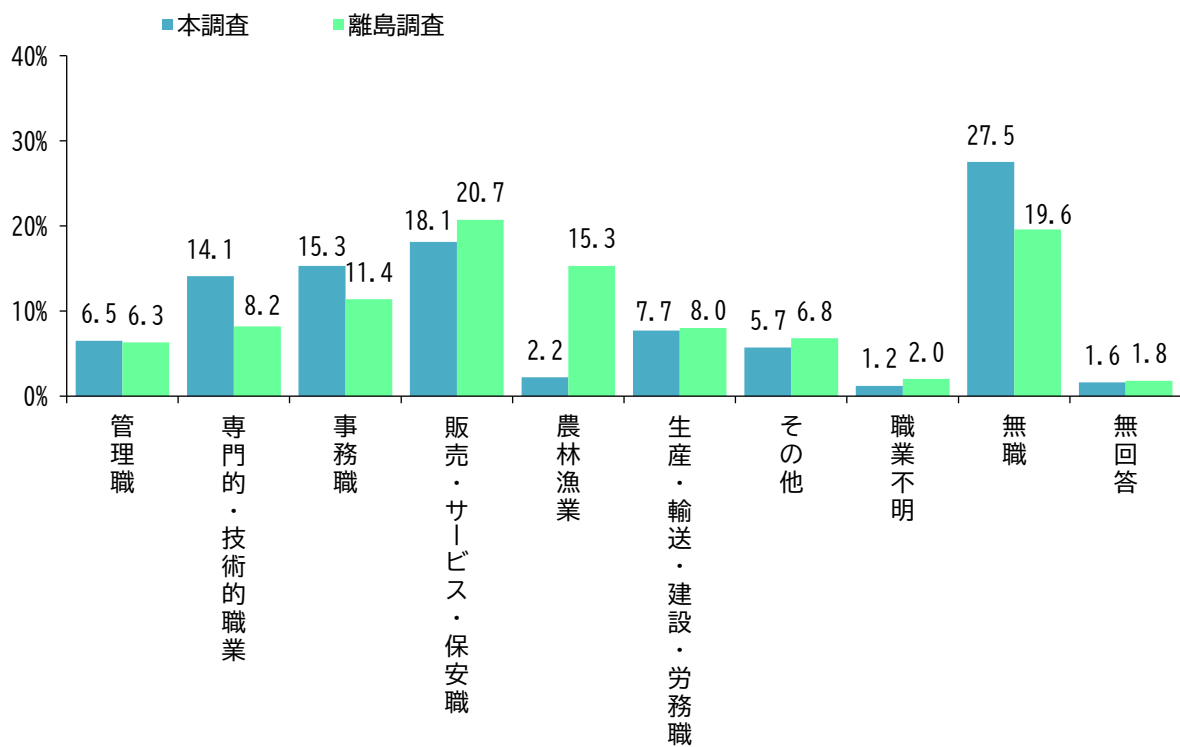
(イ)性別



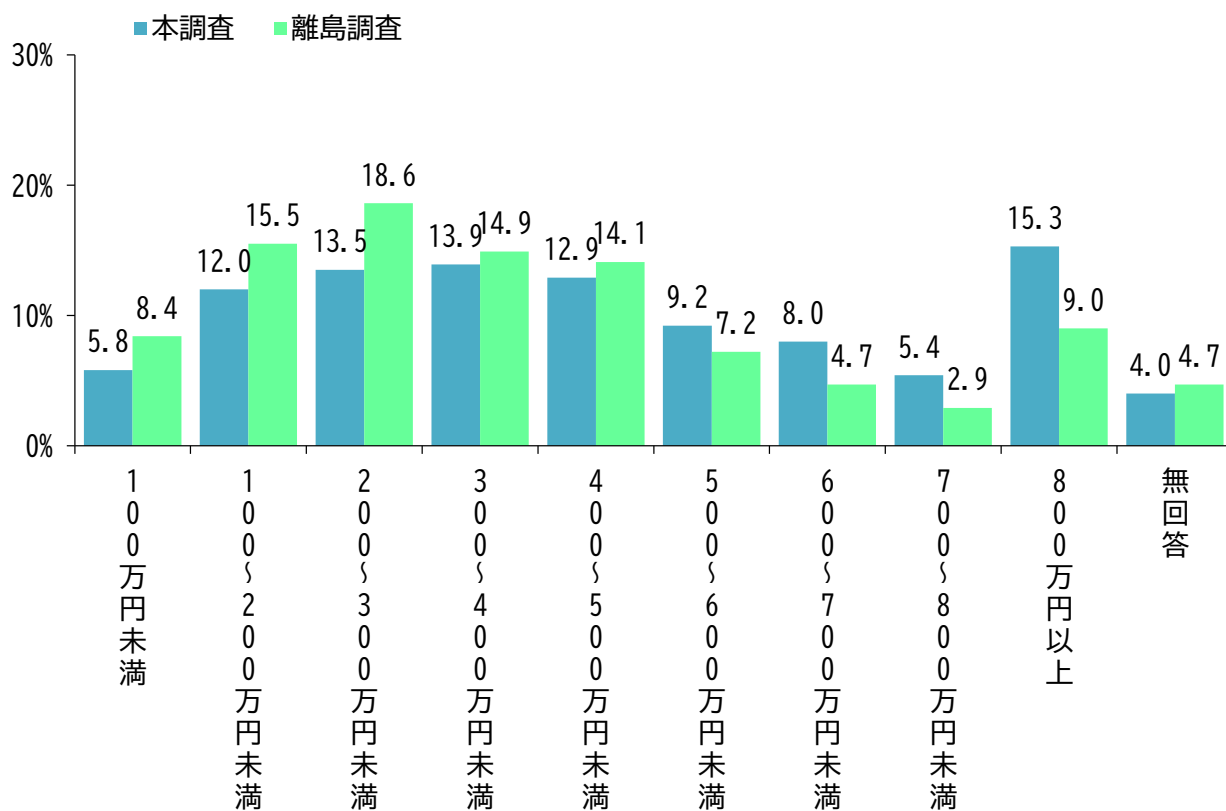
(ウ)年代



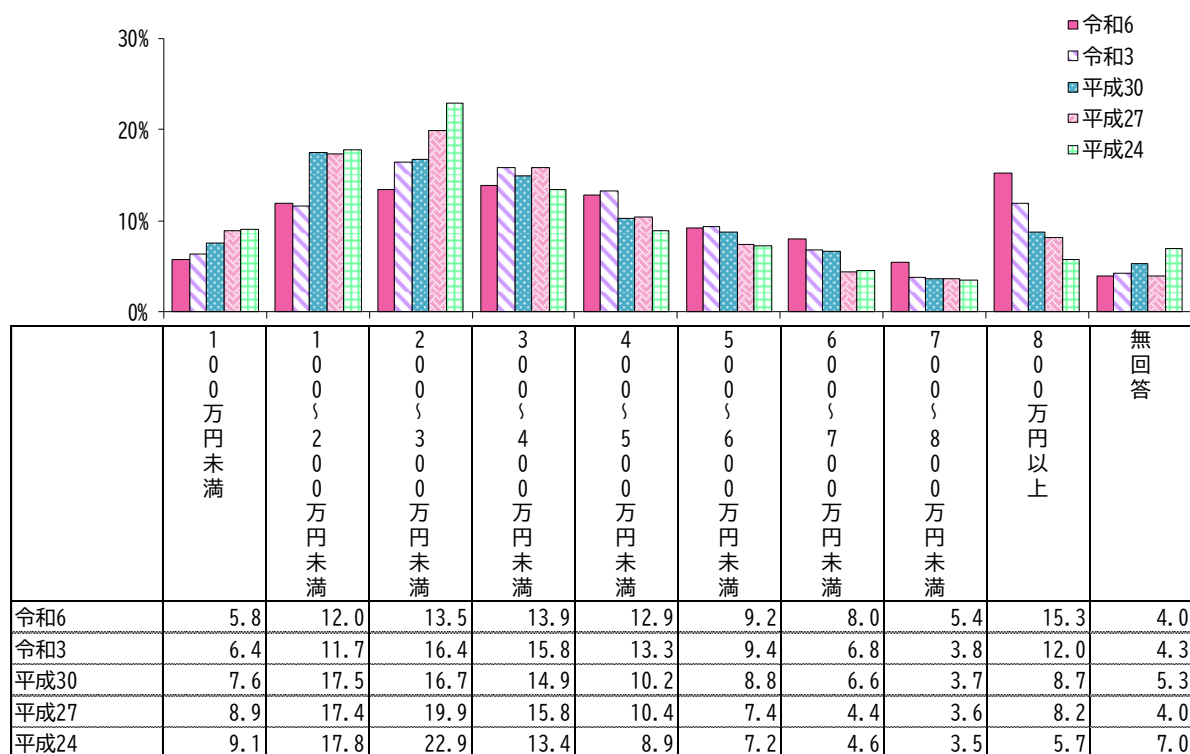
(エ)職業



(才)世帯年収

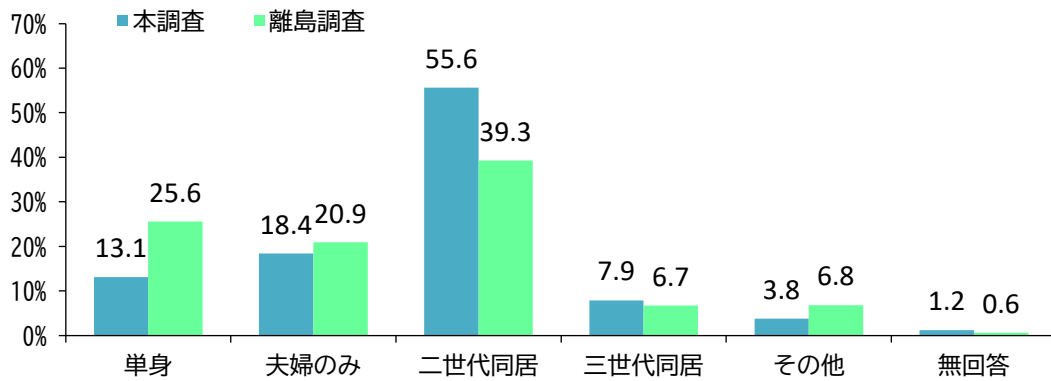


《世帯年収の推移（本調査）》

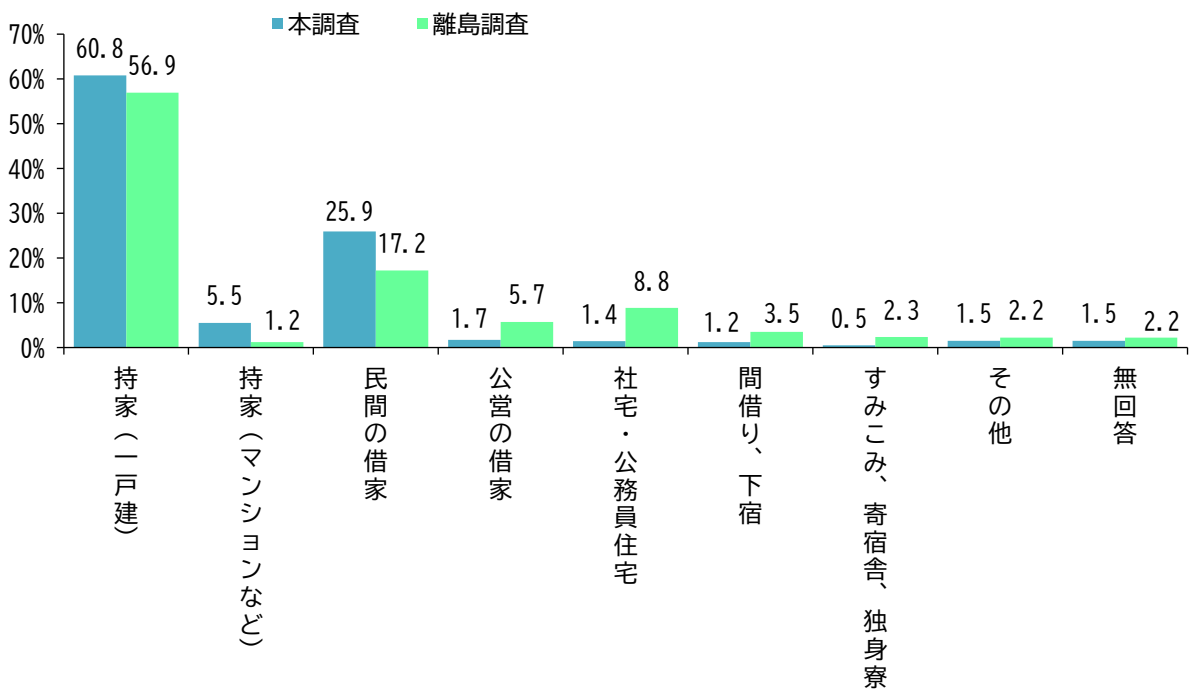


I 概要

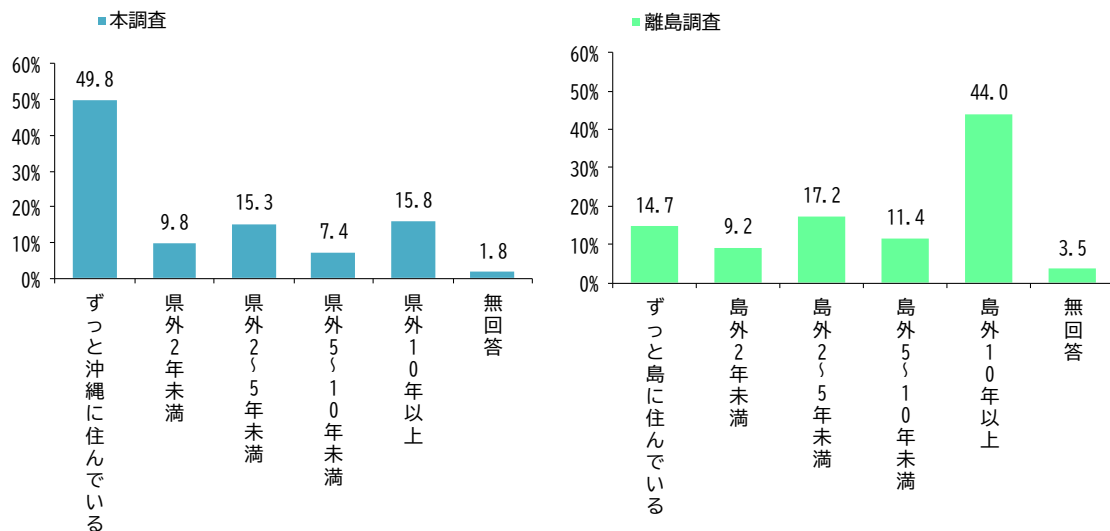
(カ) 家族構成



(キ) 居住形態



(ク) 県外（島外）居住経験

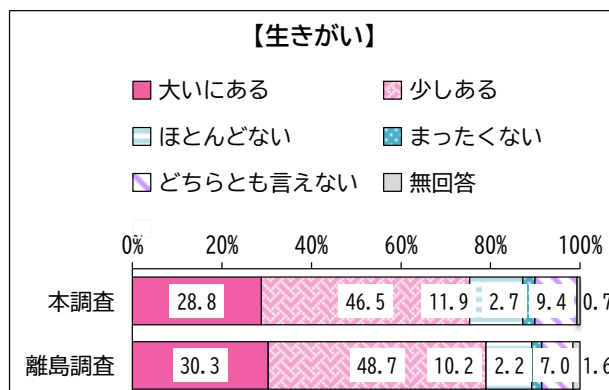
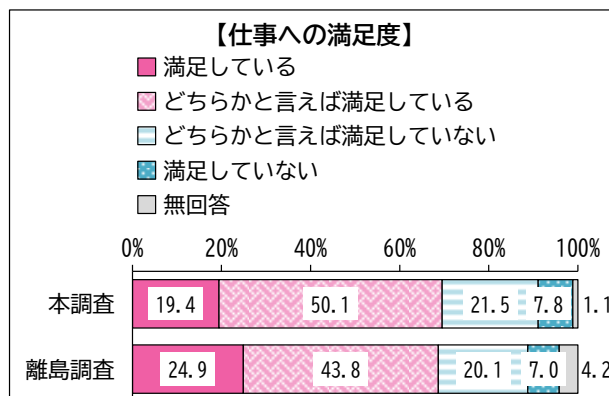
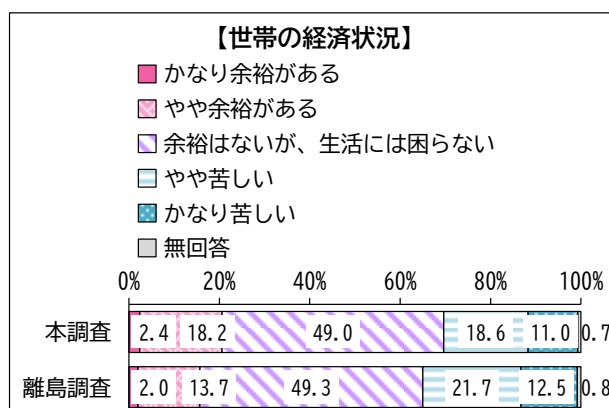
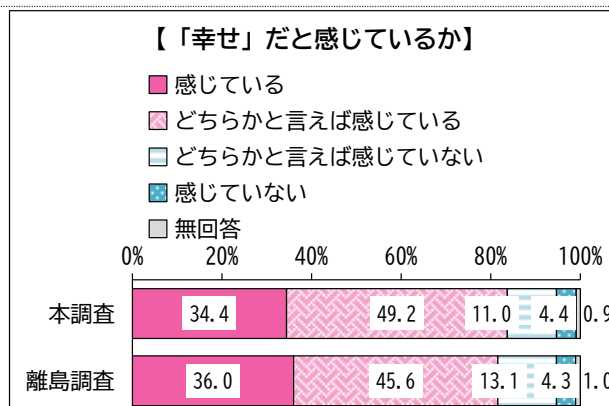


2. 調査結果の要約

(1) 県民の自己像

① 「幸せ感」や生活の状況等

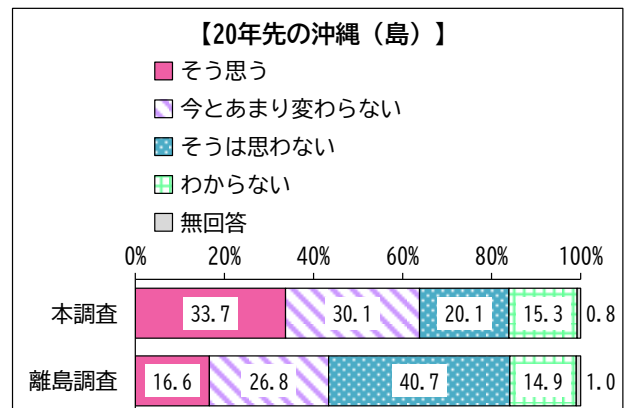
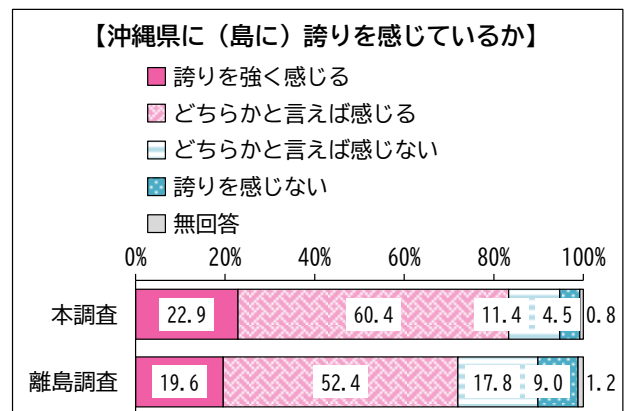
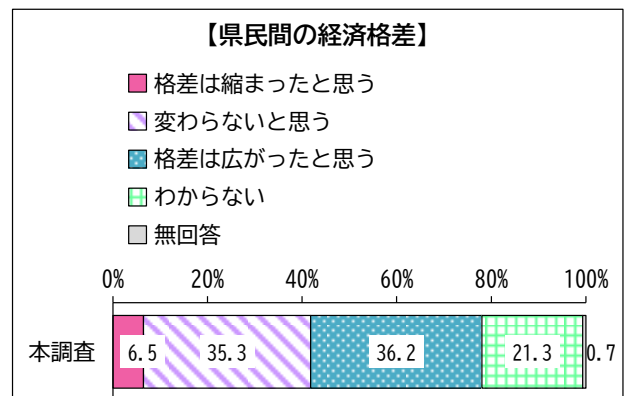
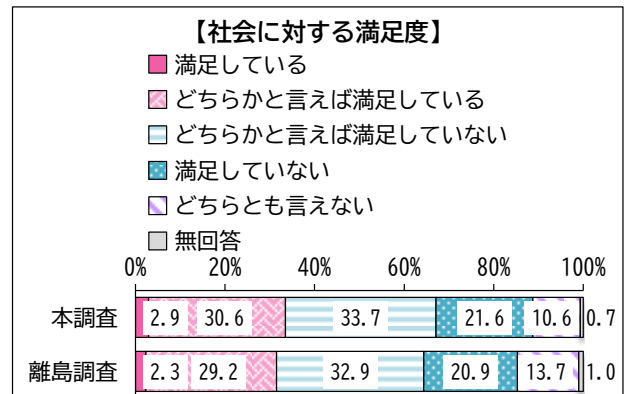
- 『**幸せ感**』については、平成 24・27・30 年・令和 3 年度調査（以下、「過去4回の調査」という。）と同じく、本調査の8割強が「幸せ」だと感じている。『**幸せを感じる時**』として過半数の人が家族や仲間と一緒にいるときと回答している。【本調査 35 頁・図表Ⅱ-1-16、離島調査 237 頁・図表Ⅲ-1-19】
- 『**世帯の経済状況**』については、本調査・離島調査ともに、5割の世帯が「余裕はないが、生活には困らない」と回答しているが、その割合は前回調査よりやや減少している。【本調査 39 頁・図表Ⅱ-1-26、離島調査 242 頁・Ⅲ-1-31】
- 『**仕事への満足度**』については、働いている人の7割弱が現在の仕事に「満足している」または「どちらかと言えば満足している」と回答している。平成 30 年度調査で離島調査の満足度は7割を超えていたが、令和3年度調査、及び今回は7割を下回っている。【本調査 41 頁・図表Ⅱ-1-31、離島調査 244 頁・Ⅲ-1-37】
- 『**生きがい**』については、本調査・離島調査ともに、7割が「生きがい」を持っている。また、離島調査では、生きがいがあるとの回答が本調査よりやや多くなっている。【本調査 49 頁・図表Ⅱ-1-51、離島調査 252 頁・Ⅲ-1-61】



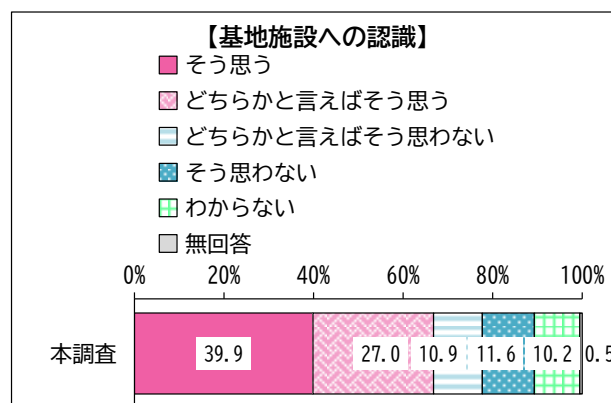
I 概要

② 社会に対する意識等

- 『社会に対する満足度』については、本調査・離島調査ともに「どちらかといえば満足していない」が3割超と最も高い割合となっており、これに「満足していない」を合わせると5割強となっている。【本調査 51 頁・図表Ⅱ-1-56、離島調査 254 頁・図表Ⅲ-1-67】
- 『県民間の経済格差』については、10 年前の沖縄と比べて、「格差は広がったと思う」と回答した割合が最も多く、次いで「変わらないと思う」となっている。【本調査 53 頁・図表Ⅱ-1-61】
- 『沖縄県に（島に）誇りを感じているか』については、過去4回の調査と同様に、誇りを感じているとの回答が約8割になっている。離島調査については、本調査と比べて「（島に）誇りを強く感じている」の割合は低く、「どちらかといえば感じない」と「誇りを感じない」を合わせると本調査より高くなっている。【本調査 55 頁・図表Ⅱ-1-66、離島調査 257 頁・図表Ⅲ-1-73】
- 『20 年先の沖縄（島）』については、本調査では現在より発展し、輝いている（「そう思う」）と回答している割合が最も高く3割半ばを占める一方で、離島調査では 20 年後の島について「そうは思わない」との回答の割合が最も高く4割を占めている。【本調査 31 頁・図表Ⅱ-1-6、離島調査 233 頁・図表Ⅲ-1-7】

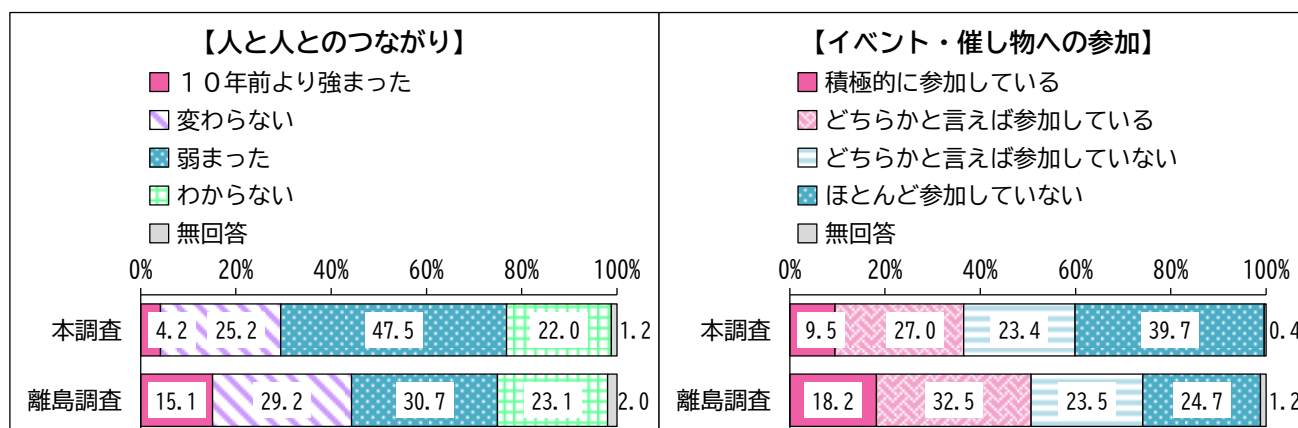


- 『米軍施設への認識』については、沖縄県に全国の米軍専用施設の約70.3%が存在していることについて差別的な状況だと思う(「そう思う」)の割合は約4割を占め、「どちらかといえばそう思う」をあわせると6割半ばが、差別的な状況だと捉えている。年代別の「そう思う」の割合は、20代30代は低く、50代以上で高い傾向にある。【本調査59頁・図表Ⅱ-1-76】



③ 人や地域とのつながり

- 『人と人とのつながり』については、本調査では10年前に比べてつながりが「弱まった」と感じている人の割合は4割半ばと高く、過去4回の調査で最も高い。「強まった」と感じている人の割合は1割に満たない。一方で、離島調査では「変わらない」、「強まった」の割合は本調査より高く、つながりが薄れていないと感じている人も比較的多い。【本調査29頁・図表Ⅱ-1-1、離島調査231頁・図表Ⅲ-1-1】
- エイサーや盆踊り、親睦モアイ等の『イベント・催し物への参加』については、本調査では「ほとんど参加していない」の割合が4割弱と最も高く、「どちらかといえば参加していない」を合わせると6割超を占める。一方、離島調査で「どちらかといえば参加している」の割合は3割強と最も高く、「積極的に参加している」を合わせると過半数を占めている。【本調査61頁・図表Ⅱ-1-81、離島調査262頁・図表Ⅲ-1-85】
- 本調査における『近隣との交流の程度』の回答結果については、近隣との交流がない人の割合が7割弱を占め、『地域活動への参加の程度』でも「参加していない」と「あまり参加していない」を合わせると8割弱となっている。【本調査63頁・図表Ⅱ-1-86、65頁・Ⅱ-1-91】
- 本調査における今後の『地域の交流のあり方に対する希望』については、「挨拶程度の交流」、「日常的な交流」、「困ったときに助け合える」の順で希望率が高い。過去調査と比較すると、「挨拶程度の交流」の割合が徐々に上昇している。【本調査69頁・Ⅱ-1-101】



I 概要

(2) 県民生活の重要度・充足度

① 重要度

- 「非常に重要である」の比率は、「(45) 安心して家庭で水が使える」(84.4%)が最も高く、次いで「(26) 老後に不安のない年金が得られる」(78.4%)、「(36) 犯罪がない安心な暮らしの確保」(78.3%)、「(31) 救急患者が適切な治療を受けられる」(77.7%)、「(46) 下水道が整備されている」(75.5%)、「(30) 良質な医療を受けられる」(75.4%)の順となっている。前回の調査における上位の項目を比較してみると、順位の移動はあるものの、4位まで同じ項目となっている。【本調査 74 頁・図表Ⅱ-2-2】
- 「非常に重要である」の回答比率について、過去4回の調査からの増減は、「(44) 快適にインターネットにつながる」や「(12) 目的地まで円滑に移動できる」等で大きく増加し、重要視する人が多くなっている。反対に、「(25) 高齢者が住み慣れた地域で生き生きとくらせる」、「(69) 平和を願う心が継承、発信されている」等で重要視する割合が減少している。【本調査 74 頁・図表Ⅱ-2-2】
- 「非常に重要である」の回答を地域別にみると、全ての地域で「(44) 安心して家庭で水が使える」が第1位にあがっている。また、「(30) 救急患者が適切な治療を受けられる」の割合は、宮古と八重山で第2位となっている。【本調査 76 頁・図表Ⅱ-2-3】

「非常に重要である」比率 上位10位	令和6(今回調査)		令和3	平成30	平成27
	「非常に重要である」比率	順位	順位	順位	順位
(45) 安心して家庭で水が使える	84.4	1位	(1位)	(1位)	(2位)
(26) 老後に不安のない年金が得られる	78.4	2位	(4位)	(4位)	(1位)
(36) 犯罪がない安心な暮らしの確保	78.3	3位	(3位)	(2位)	(3位)
(31) 救急患者が適切な治療を受けられる	77.7	4位	(2位)	(3位)	(4位)
(46) 下水道が整備されている	75.5	5位	(6位)	(7位)	(10位)
(30) 良質な医療を受けられる	75.4	6位	(5位)	(5位)	(7位)
(33) 費用の心配なく、医療を受けられる	73.9	7位	(7位)	(6位)	(5位)
(64) 物価が安定している	73.0	8位	(17位)	(17位)	(17位)
(62) 収入が着実に増える	72.2	9位	(14位)	(10位)	(8位)
(23) 少年の非行や犯罪が少なくなる	71.1	10位	(8位)	(8位)	(5位)

「非常に重要である」比率 下位10位	令和6(今回調査)		令和3	平成30	平成27
	「非常に重要である」比率	順位	順位	順位	順位
(68) 沖縄の特性や技術等を生かした国際協力・貢献が盛ん	28.4	69位	(67位)	(67位)	(65位)
(17) スポーツにふれる機会が増える	28.2	70位	(66位)	(66位)	(66位)
(8) 地域の文化資源を生かしたまちづくりが盛ん	27.7	71位	(69位)	(69位)	(67位)
(7) 県民が文化芸術にふれる機会が増加	26.9	72位	(68位)	(68位)	(68位)
(66) 世界のウチナーネットワークなどを生かした国際交流が盛ん	25.2	73位	(70位)	(70位)	(69位)
(22) 結婚して家庭を持つこと	24.2	74位	(75位)	(75位)	(74位)
(49) 地域の活動や行事が盛ん	22.9	75位	(73位)	(73位)	(73位)
(50) 集会場や公民館が近く利用しやすい	21.7	76位	(74位)	(72位)	(72位)
(67) 多くの外国人が訪れ、県民との交流が活発	21.0	77位	(71位)	(71位)	(71位)
(78) 産業発展のための外国人就労者受け入れ	19.1	78位	(72位)	(74位)	-

「非常に重要である」比率の増減が大きい項目（平成27年度調査との比較）			
平成27年度から 5ポイント以上 増加		平成27年度から 5ポイント以上 減少	
(44) 快適にインターネットにつながる(+19.6)		(25) 高齢者が住み慣れた地域で生き生きとくらせる(▲8.6)	
(12) 目的地まで円滑に移動できる(+10.0)		(69) 平和を願う心が継承、発信されている(▲6.6)	
(22) 結婚して家庭を持つこと(+9.1)※		(6) 沖縄文化が保全・継承されている(▲5.9)	
(46) 下水道が整備されている(+8.1)		(61) 失業の不安がなく働ける(▲5.9)	
(64) 物価が安定している(+7.5)		(67) 多くの外国人が訪れ、県民との交流が活発(▲5.1)	
(14) 生活に必要な施設がある(+6.7)			
(43) 住環境が良好(+5.8)			
(29) イライラやストレスなど精神的緊張が少ない(+5.3)			
(45) 安心して家庭で水が使える(+5.2)			
(11) 公共交通機関が利用しやすい(+5.2)			

※「結婚して家庭を持つこと」については、過去調査では「若いうちに結婚して家庭を持つこと」となっており、単純比較ができない。

② 充足度

- 生活の各側面(78 項目)に対する充足度を6段階でたずねたところ、「非常に満たされている」、「ある程度満たされている」を合計した比率(以下、「満足層」という)は、「(45)安心して家庭で水が使える」で7割強となり、次いで「(46)下水道が整備されている」が7割弱、「(14)生活に必要な施設がある」が6割となっている。一方、満足層の比率が最も低い項目は「(64)物価が安定している」、次いで「(42)米軍基地から派生する諸問題への対策が講じられている」、「(77)地域づくりを担う人材の育成」、「(26)老後に不安のない年金が得られる」等が1割台の下位項目となっている。【本調査 83 頁・図表Ⅱ-2-7】
- 過去4回の調査からの増減をみると、全般的に平成 27 年度調査に比べて満足層の割合が高まっている項目が減少した。平成 27 年度調査に比べて満足層の割合が高まった項目は「(33)費用の心配なく、医療を受けられる」や、「(61)失業の不安がなく働ける」、「(20)仕事と生活が両立しやすい職場環境」等の安全・安心に係る項目で満足度の伸びが大きい。反対に、「(45)安心して家庭で水が使える」や「(49)地域の活動や行事が盛ん」等で満足層が減少している。【本調査 83 頁・図表Ⅱ-2-7】
- 満足層の比率を地域別にみると、全地域で「(45)安心して家庭で水が使える」が第1位にあがっており、次いで本島4地域では「(46)下水道が整備されている」、離島2地域では「(36)犯罪がない安心なくらしの確保」が上位となっている。【本調査 85 頁・図表Ⅱ-2-8】

充足度比率 上位10位	令和6(今回調査)		令和3	平成30	平成27
	充足度比率	順位	順位	順位	順位
(45) 安心して家庭で水が使える	73.1	1位	(1位)	(1位)	(1位)
(46) 下水道が整備されている	67.4	2位	(2位)	(2位)	(2位)
(14) 生活に必要な施設がある	59.3	3位	(3位)	(3位)	(3位)
(43) 住環境が良好	54.8	4位	(4位)	(4位)	(4位)
(10) 公園や親しめる自然などがまわりにある	51.2	5位	(7位)	(8位)	(6位)
(35) 食の安全・安心が確保されている	51.0	6位	(5位)	(5位)	(8位)
(36) 犯罪がない安心なくらしの確保	50.4	7位	(6位)	(7位)	(7位)
(1) 豊かな自然が保全されている	50.2	8位	(9位)	(6位)	(5位)
(40) 商品等の品質等が確保されている	49.8	9位	(8位)	(9位)	(9位)
(30) 良質な医療が受けられる	48.8	10位	(10位)	(13位)	(12位)
(32) 健康診断、健康の相談が受けやすい	48.8		(12位)	(11位)	(15位)

I 概要

充足度比率 下位10位	令和6(今回調査)		令和3	平成30	平成27
	充足度比率	順位	順位	順位	順位
(27) 障害者の社会参加が拡大している	20.6	69位	(68位)	(68位)	(66位)
(56) 元気な中小企業等が増えている	20.6		(66位)	(69位)	(67位)
(65) 軍用跡地が沖縄の発展に有効に利用されている	20.1	71位	(61位)	(64位)	(60位)
(75) 優れた能力や感性を育む教育環境の充実	20.0	72位	(70位)	(72位)	(68位)
(76) 沖縄の産業発展を担う人材育成	18.7	73位	(71位)	(73位)	(69位)
(74) 外国語教育が充実している	18.3	74位	(73位)	(70位)	(72位)
(26) 老後に不安のない年金が得られる	18.1	75位	(74位)	(71位)	(69位)
(77) 地域づくりを担う人材の育成	17.3	76位	(72位)	(74位)	(71位)
(42) 米軍基地から派生する諸問題への対策が講じられている	14.5	77位	(75位)	(75位)	(74位)
(64) 物価が安定している	13.4	78位	(54位)	(60位)	(65位)

充足度比率の増減が大きい項目（平成27年度調査との比較）	
平成27年度から 5ポイント以上 増加	
(22) 結婚して家庭を持つこと(+20.1)※	(21) 夫婦が協力して家事や育児にとりくむ(+6.1)
(33) 費用の心配なく、医療を受けられる(+9.5)	(9) 自分の住む町の景観、町並みが美しい(+5.8)
(61) 失業の不安がなく働ける(+9.1)	(40) 商品等の品質等が確保されている(+5.5)
(20) 仕事と生活が両立しやすい職場環境(+9.0)	(35) 食の安全・安心が確保されている(+5.4)
(63) 近くで希望する仕事につける(+7.9)	(30) 良質な医療が受けられる(+5.4)
(32) 健康診断、健康の相談が受けやすい(+7.6)	(58) 適職、やりがいのある仕事ができる(+5.2)
(44) 快適にインターネットにつながる(+7.4)	(25) 高齢者が住み慣れた地域でくらす(+5.0)
(62) 収入が着実に増える(+6.9)	
平成27年度から 5ポイント以上 減少	
(45) 安心して家庭で水が使える(▲7.2)	(49) 地域の活動や行事が盛ん(▲7.1)

※「結婚して家庭を持つこと」については、過去調査では「若いうちに結婚して家庭を持つこと」となっており、単純比較ができない。

③ 重要度・充足度の関係からみた県民ニーズ

- 重要度・充足度を把握した 78 項目について、重要度と充足度のそれぞれの平均得点を算出し、その関係性から施策を4つの象限に分類した。重要度と充足度がともに高い第一象限に「(45)安心して家庭で水が使える」、「(46)下水道が整備されている」といった上下水道に関する項目をはじめ、「(36)犯罪がない安心な暮らしの確保」や「(35)食の安全・安心が確保されている」といった安心・安全に関する項目等の 24 項目が属している。【本調査 92 頁・図表Ⅱ-2-13】
- 一方、重要度は高いが充足度が低い第四象限には「(64)物価が安定している」、「(26)老後に不安のない年金が得られる」や「(12)目的地まで円滑に移動できる」をはじめ、「(62)収入が着実に増える」、「(61)失業の不安がなく働ける」、等の所得・就労等に関する項目の他、「(33)費用の心配なく、医療を受けられる」や「(3)赤土流出、騒音、環境汚染などが少なくなる」、「(23)少年の非行や犯罪が少なくなる」等の 18 項目が属している。【本調査 92 頁・図表Ⅱ-2-13】

高	充足度（平均得点）	第二象限	第一象限
		(78) 産業発展のための外国人就労者受け入れ (22) 結婚して家庭を持つこと (50) 集会場や公民館が近く利用しやすい (67) 多くの外国人が訪れ、県民との交流が活発 (49) 地域の活動や行事が盛ん (66) 世界のウチナーネットワークなどを生かした国際交流が盛ん (68) 沖縄の特性や技術等を生かした国際協力・貢献が盛ん (7) 県民が文化芸術にふれる機会が増加 (8) 地域の文化資源を生かしたまちづくりが盛ん (57) すすめることができる地域の特産品がある (1) 豊かな自然が保全されている (55) 県産食材を購入（消費）する機会が増える (6) 沖縄文化が保全・継承されている (47) 地域や社会をよくする活動ができる機会が増えている (48) 女性の社会活動参加、能力発揮 (44) 快適にインターネットにつながる (2) 自然環境の保全と利用のバランスが取れている (9) 自分の住む町の景観、町並みが美しい	(45) 安心して家庭で水が使える (46) 下水道が整備されている (36) 犯罪がない安心な暮らしの確保 (31) 救急患者が適切な治療を受けられる (30) 良質な医療を受けられる (35) 食の安全・安心が確保されている (43) 住環境が良好 (14) 生活に必要な施設がある (40) 商品等の品質等が確保されている (32) 健康診断、健康の相談が受けやすい (37) 防災対策が充実している (39) 交通ルールの遵守等、交通の安全が確保されている (18) 安心して子どもを生育てられる環境が整っている (38) 配偶者等からの暴力の防止と被害者への支援環境の充実 (70) 健全育成が図られる教育環境がつけられている (21) 夫婦が協力して家事や育児にとりくむ (10) 公園や親しめる自然などがまわりにある (69) 平和を願う心が継承、発信されている (19) 学童保育所等が利用しやすい (58) 適職、やりがいのある仕事ができる (25) 高齢者が住み慣れた地域で生き生きとくらせる (16) 健康の維持や増進に努める (24) こどもの権利が尊重され、社会参加の機会が増える (4) 廃棄物の適正処理、減量化等が活発
		第三象限	第四象限
		(42) 米軍基地から派生する諸問題への対策が講じられている (74) 外国語教育が充実している (17) スポーツにふれる機会が増える (15) 地域の商店街に活力がある (13) 離島と沖縄本島間など移動が気楽にできる (34) 悩みを相談できる機関等がある (65) 軍用跡地が沖縄の発展に有効に利用されている (77) 地域づくりを担う人材の育成 (5) クリーンエネルギーが普及している (76) 沖縄の産業発展を担う人材育成 (52) 行政情報が住人に分かりやすく広報されている (51) 住民の要望や意見等を十分に取り入れる (54) 沖縄の優位性等を生かした新事業・新産業が生み出されている (56) 元気な中小企業等が増えている (59) 職業紹介や職業訓練が充実している (53) 行政サービスの便利性や質の向上 (72) 生涯学習する機会が得られている (41) 商品等の苦情を処理するところがある	(64) 物価が安定している (26) 老後に不安のない年金が得られる (62) 収入が着実に増える (12) 目的地まで円滑に移動できる (23) 少年の非行や犯罪が少なくなる (33) 費用の心配なく、医療を受けられる (28) 介護サービスが充実し利用しやすい (29) イライラやストレスなど精神的緊張が少ない (75) 優れた能力や感性を育む教育環境の充実 (27) 障害者の社会参加が拡大している (3) 赤土流出、騒音、環境汚染などが少なくなる (20) 仕事と生活が両立しやすい職場環境 (61) 失業の不安がなく働ける (11) 公共交通機関が利用しやすい (71) 公平な教育機会が確保されている (63) 近くで希望する仕事につける (73) 社会に出る上で必要な資質を身に付けられる教育環境 (60) 多様なニーズに対応する学び直しの機会の充実

低

重要度(平均得点)

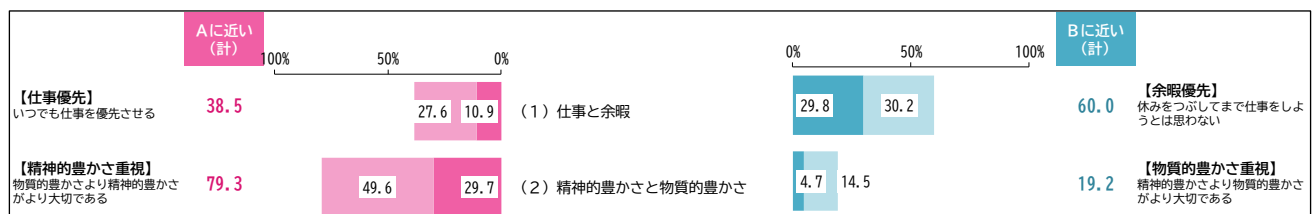
高

I 概要

(3) 生活領域の政策課題

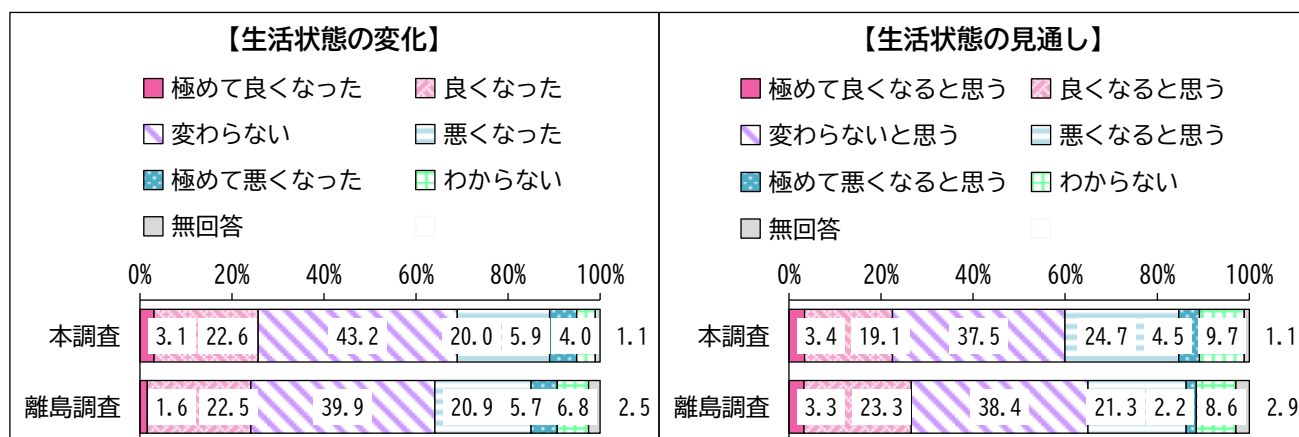
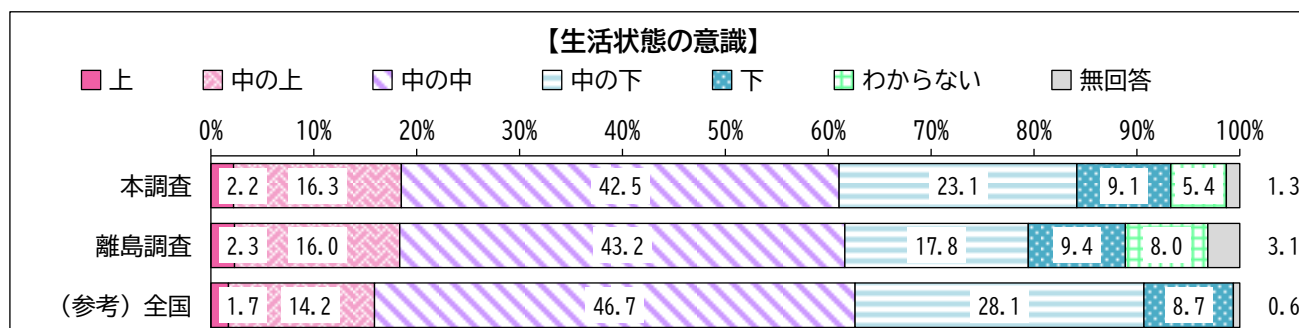
① 生活価値観の選択

- 県民の生活に対する考え方(生活価値観)に関して、8つの項目について重視または優先することをたずねたところ、『(1) 仕事と余暇に関する価値観』では、「余暇優先」が6割を占め、「仕事優先」を上回っている。時系列でみると、平成27年度調査まではほぼ拮抗していたが、平成30年度調査から「仕事優先」より「余暇優先」の割合が高い。【本調査107頁・図表Ⅱ-3-2、本調査108頁・図表Ⅱ-3-3】
- 『(2) 精神的豊かさ重視と物質的豊かさに関する価値観』では、「精神的豊かさ重視」が8割弱を占め、「物質的豊かさ重視」を大きく上回っている。時系列でみても、「精神的豊かさ重視」の傾向に変わりはないものの、平成30年・令和3年度調査では「物質的豊かさ重視」の割合が2割を超えたが、今回調査では2割弱となった。【本調査109頁・図表Ⅱ-3-4、本調査110頁・図表Ⅱ-3-5】
- 『(3) 女性の家事専念と社会進出に関する価値観』では、「社会進出」が8割を超え、「家事・育児専念」を大きく上回っている。時系列でみると、「家事・育児専念」と「社会進出」の差が大きくなっている。【本調査111頁・図表Ⅱ-3-6、本調査112頁・図表Ⅱ-3-7】
- 『(4) 男性の家事専念と社会活動に関する価値観』では、「家事・育児専念」が令和3年度調査から5割を超え、「社会で活動」を上回り逆転した。【本調査113頁・図表Ⅱ-3-8、114頁・図表Ⅱ-3-9】
- 『(5) 能力・実績重視と年功序列に関する価値観』では、「能力・実績重視」が8割弱を占め、「年功序列重視」を大きく上回っている。時系列でみても、「能力・実績重視」の割合が高く、平成30年度調査から増加傾向にある。【本調査115頁・図表Ⅱ-3-10、本調査116頁・図表Ⅱ-3-11】
- 『(6) 都心での生活と郊外での生活に関する価値観』では、「郊外での生活」が「都心での生活」を上回っている。これまで「郊外での生活」が過半数以上を占めているものの、「都心での生活」も平成24年度調査以降4割を超えている。【本調査117頁・図表Ⅱ-3-12、本調査118頁・図表Ⅱ-3-13】
- 『(7) 改革と保守に関する価値観』では、「新しいものを取り入れて、改革をしてほしい」が7割弱を占め、「古いものの価値を大切にする」を上回っている。平成16年調査以降は、「新しいものを取り入れて改革してほしい」が過半数を超えている。【本調査119頁・図表Ⅱ-3-14、本調査120頁・図表Ⅱ-3-15】
- 『(8) 地方分権と中央集権に関する価値観』では、「地方分権を進める」が9割弱を占め、「中央集権」を大きく上回っている。時系列でみても、「地方分権を進める」が8割を超えている。【本調査121頁・図表Ⅱ-3-16、本調査122頁・図表Ⅱ-3-17】



② 生活状況（くらしむき）の意識・変化・見通し

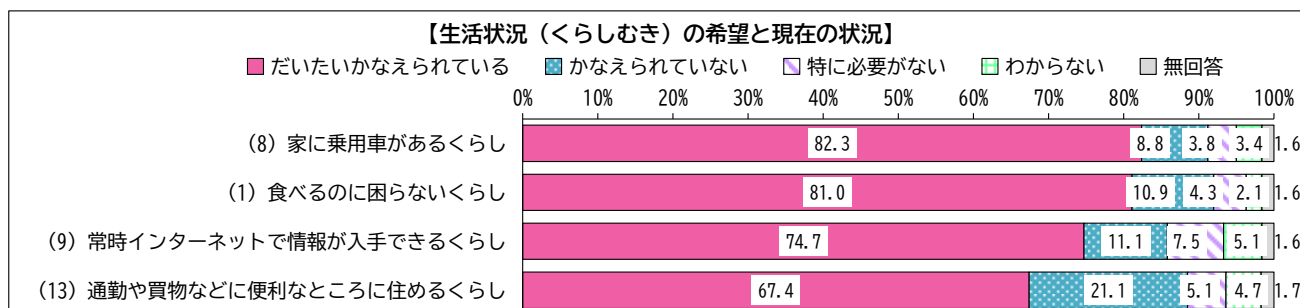
- 現在の『（１）生活状態の意識』では、本調査・離島調査ともに「中の中」の割合が4割強を占め、「中の上」と「中の中」で過半数を占めている。全国（内閣府／国民生活に関する世論調査[令和6年8月調査]）では「中の中」と「中の下」ともに、全国が本県よりも高くなっている。【本調査 124 頁・図表Ⅱ-3-19、離島調査 265 頁・図表Ⅲ-2-1】
- 4、5年前の生活と比べた『（２）生活状態の変化』では、本調査・離島調査ともに「変わらない」の割合が4割超と最も高く、次いで「良くなった」が2割強で続く。時系列でみると、「悪くなった」の割合が、前回調査より増えている。【本調査 126 頁・図表Ⅱ-3-25、離島調査 268 頁・図表Ⅲ-2-8】
- 今後の『（３）生活状態の見通し』については、本調査・離島調査ともに「変わらないと思う」の割合が約4割弱で最も高く、次いで「悪くなると思う」が2割強と続く。時系列でみると、「悪くなると思う」の割合は、前回調査より増えている。【本調査 129 頁・図表Ⅱ-3-31、離島調査 271 頁・図表Ⅲ-2-15】



I 概要

③ 生活状況（くらしむき）の希望と現実の状況

- 本調査において生活状態（18 項目）に関する希望に対する現在の状況をたずねたところ、「家に乗用車があるくらし」、「食べるのに困らないくらし」で8割を超え、「常時インターネットで情報が入手できるくらし」、「通勤や買物などに便利なところに住めるくらし」、「犯罪等に巻き込まれる心配がない安心なくらし」の計5項目で6割を超えた。一方、希望を「かなえられていない」の割合は「老後に安心してらせるだけの貯えのあるくらし」で7割強と最も高く、「海外旅行ができるくらし」、「ある程度お金が貯められるようなくらし」が5割を超えた。【本調査 132 頁・図表Ⅱ-3-37】
- 「だいたいかなえられている」の割合を時系列でみると、今回調査にて初めて「家に乗用車があるくらし」が「食べるのに困らないくらし」を超え1位となった。また、「安定した仕事ができるくらし」は、平成 16 年度調査以降、徐々に増加し、平成 27 年度調査から5割を超えている。さらに、「連続した休みがとれるくらし」も調査開始以降増加しており、今回調査では、5割を超えた。【本調査 133 頁・図表Ⅱ-3-38】



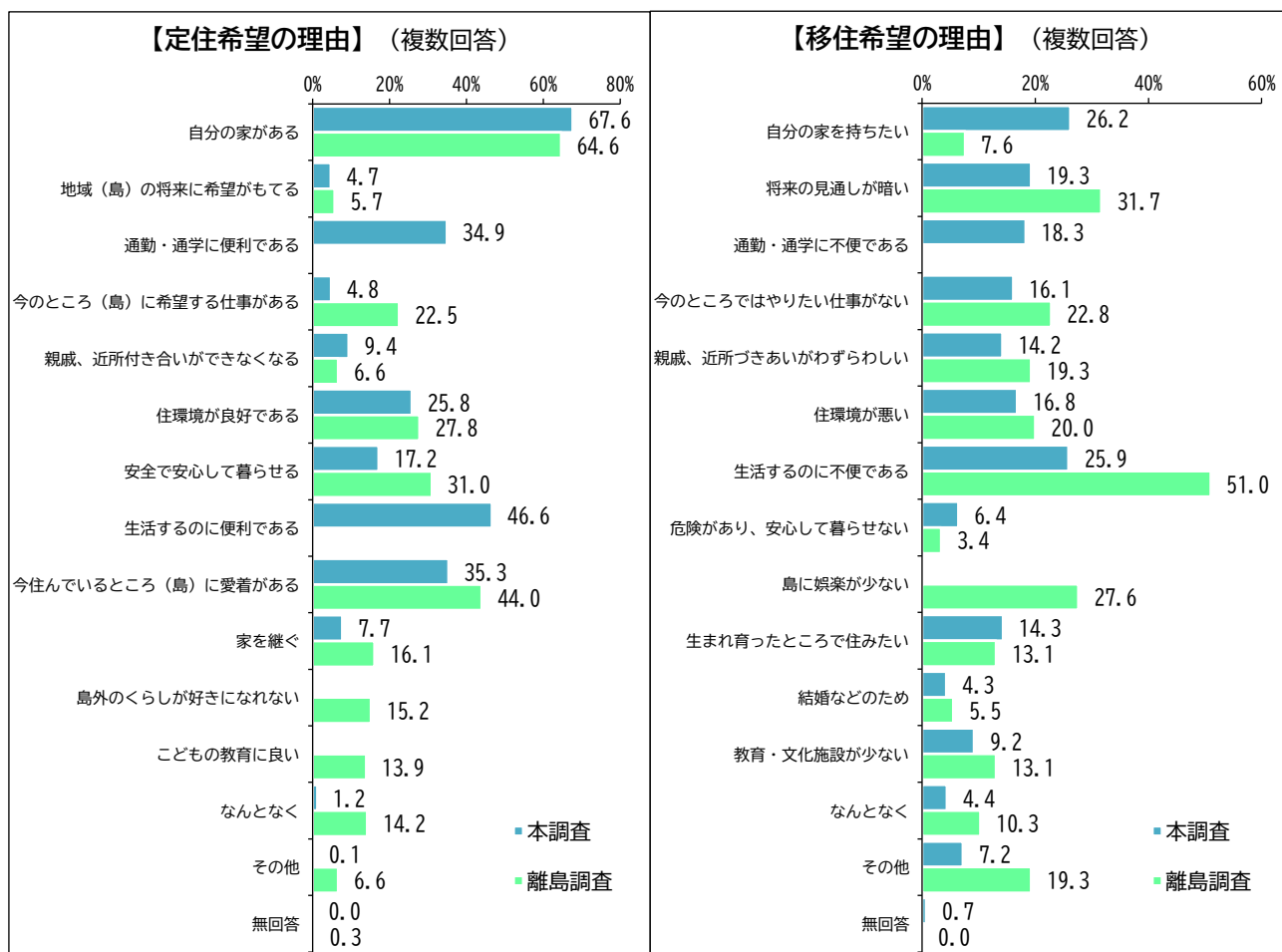
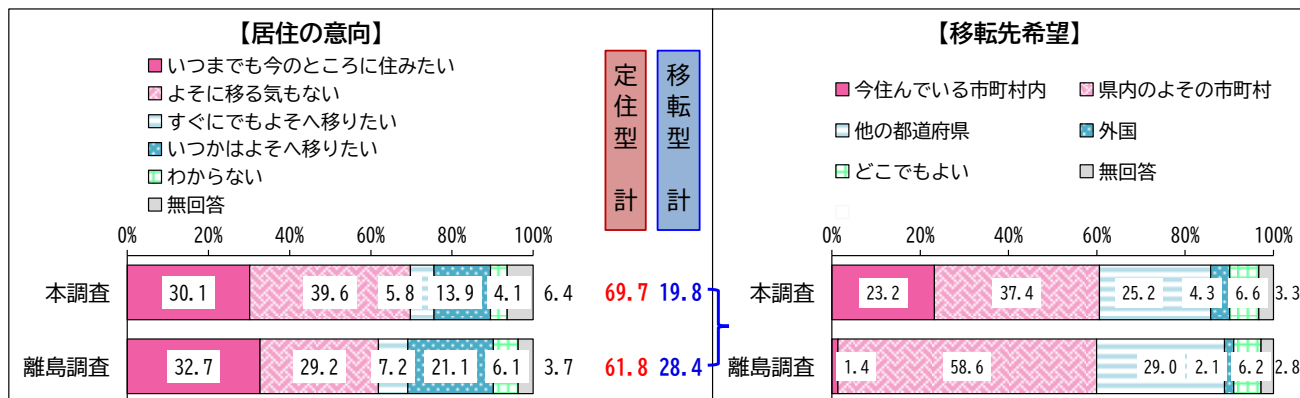
(4) 日常生活空間に対する認識

① 住居の移行と理由

- 『居住の意向』については、本調査・離島調査ともに「いつまでも住みたいと思う」と「よそに移る気もない」の割合の合計が6割を超えている。ただし、離島調査では本調査と比較して「いつかはよそへ移り住みたい」の割合が多く、前回調査と比較しても増加している。【本調査 134 頁・図表Ⅱ-4-1、離島調査 274 頁・図表Ⅲ-2-22】
- 『定住希望の理由』について、本調査・離島調査ともに「自分の家がある」の割合が6割強と最も高い。また、本調査では「生活するのに便利である」や「通勤・通学に便利である」等の生活の利便性に関する項目が、離島調査では「島に愛着を感じている」の項目の割合が高い。【本調査 136 頁・図表Ⅱ-4-4、離島調査 276 頁・図表Ⅲ-2-26】
- 移転希望者の『移転希望の理由』については、本調査では「自分の家を持ちたい」、「生活するのに不便である」が2割半ばとなっている。一方、離島調査では「生活するのに不便である」の割合が5割強と突出して高く、次いで「島の将来の見通しが暗い」や「島ではやりたい仕事がない」、「娯楽が少ない」が2割台で続いている。【本調査 138 頁・図表Ⅱ-4-7、離島調査 278 頁・図表Ⅲ-2-31】

I 概要

- 移転希望者の『移転希望先』では、本調査・離島調査ともに「県内のよその市町村(島外の県内市町村)」の割合が最も高く、次いで「今住んでいる市町村」となっており、県内での移転希望が強い。ただし、時系列でみると、「他の都道府県」の割合が増加している。【本調査 140 頁・図表Ⅱ-4-10、離島調査 280 頁・図表Ⅲ-2-36】

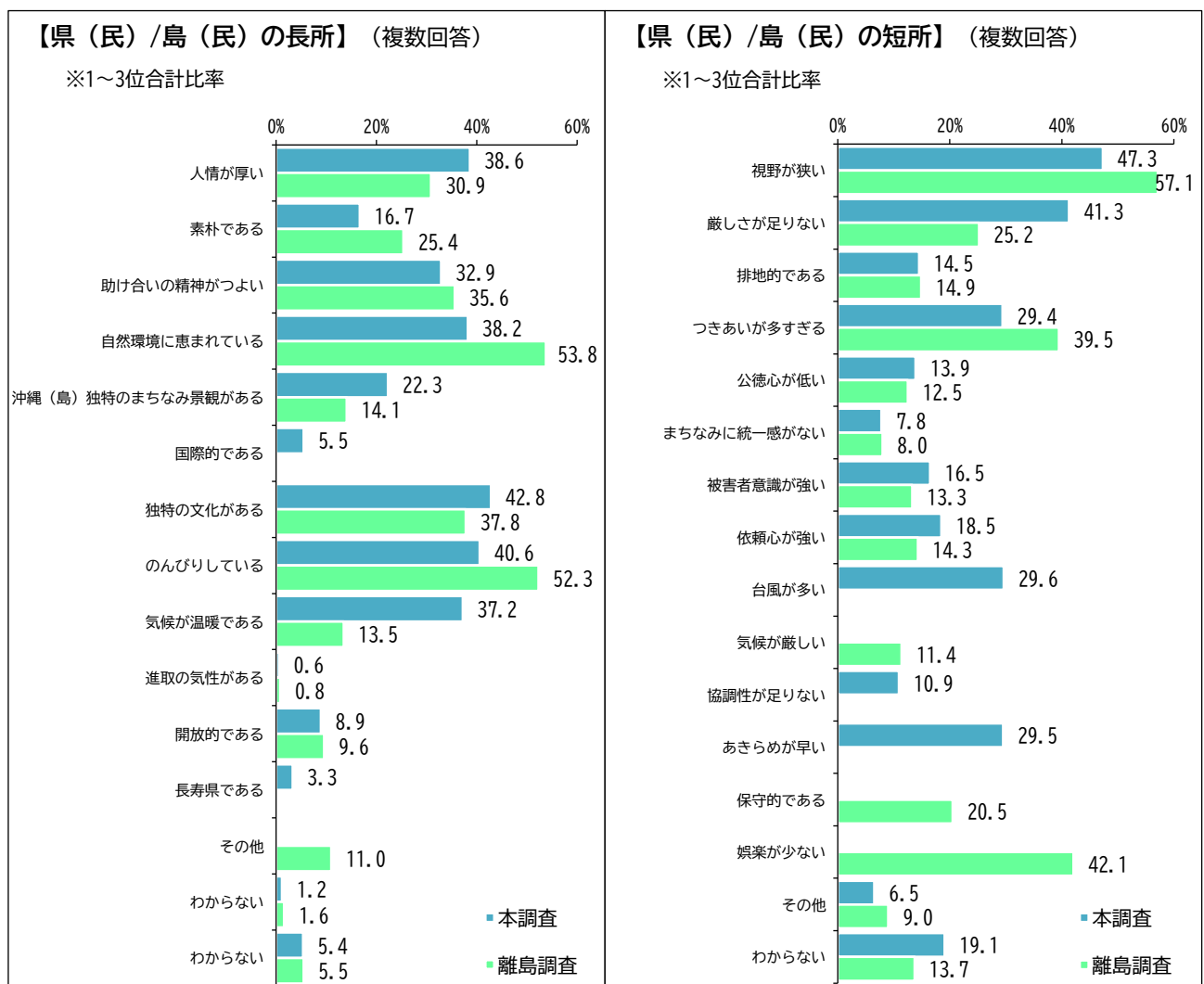


※本調査・離島調査で一部選択肢が異なる

I 概要

② 県（民）の長所・短所

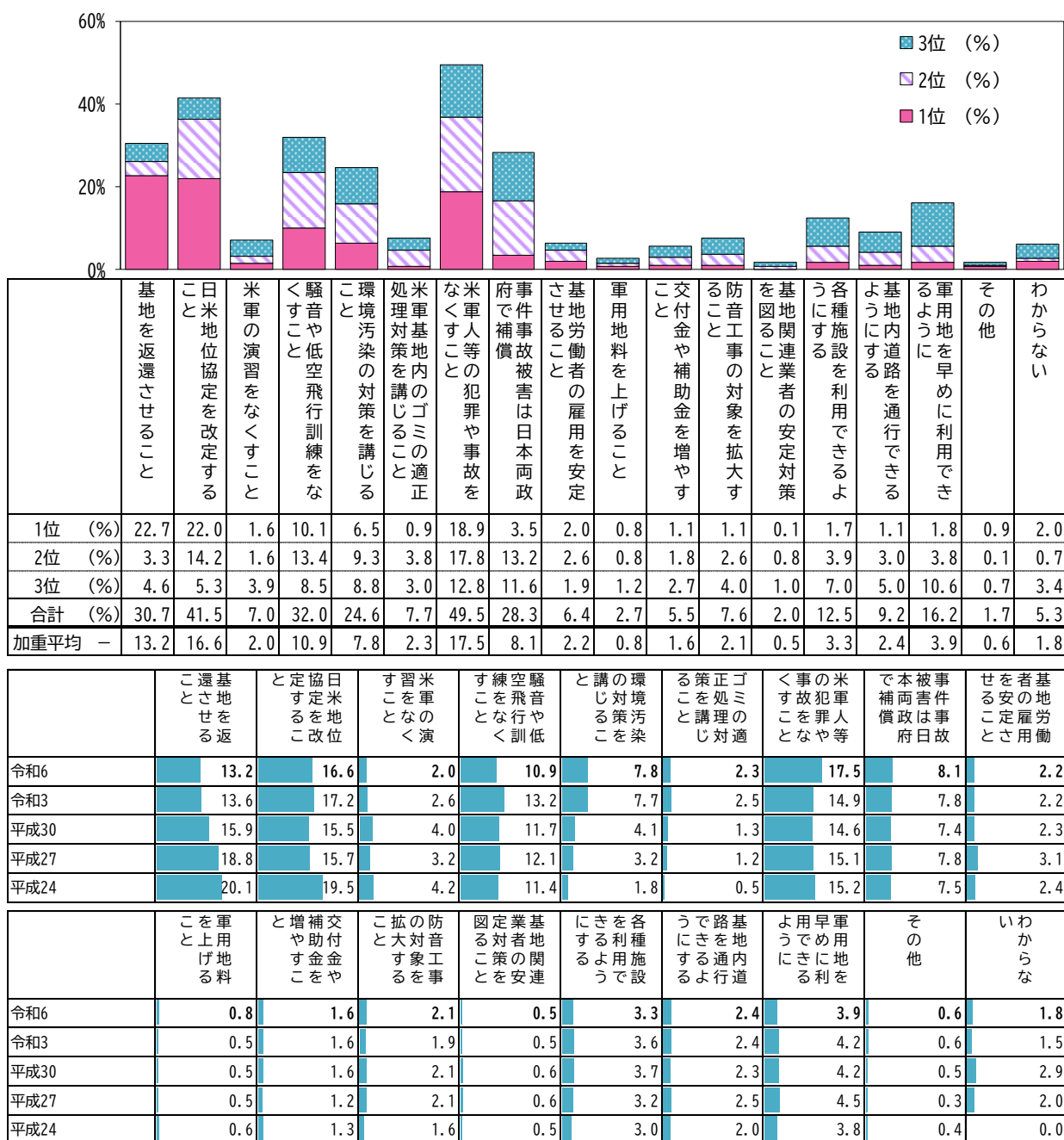
- 『県（民）の長所』の1～3位の合計比率について、本調査では「独特の文化がある」の割合が4割強と最も高く、以下「のんびりしている」、「人情が厚い」が続く。離島調査へ島（民）の長所をたずねたところ、「自然環境（景観）に恵まれている」、「のんびりしている」の割合が5割強と高くなっている。【本調査 142 頁・図表Ⅱ-4-13、離島調査 281 頁・図表Ⅲ-2-40】
- 『県（民）の短所』の1～3位の合計比率について、本調査では「視野が狭い」が5割弱と最も高く、次いで「厳しさが足りない」の割合が4割強と高く、以下「台風が多い」、「あきらめが早い」、「つきあいが多すぎる」が3割台で続く。離島調査では島（民）の短所をたずねたところ、本調査と同様に「視野が狭い」の割合が6割弱で突出して高く、次いで「娯楽が少ない」が4割弱、「つきあいが多すぎる」が3割弱となっている。【本調査 153 頁・図表Ⅱ-4-33、離島調査 293 頁・図表Ⅲ-2-62】



※本調査・離島調査で一部選択肢が異なる

③ 米軍基地に対する行政への要望

- 米軍基地から派生する様々な課題について、県や国に力を入れてほしいことの1～3位の合計比率は、「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」が5割弱と最も高く、次いで「日米地位協定を改定すること」の割合が4割強となっている。また「騒音や低空飛行訓練をなくすこと」が3割強となっている。1位に挙げる項目として、「基地を返還させること」が2割を超え、最も高い。【本調査 164 頁・図表Ⅱ-4-53】
- 県や国に力を入れてほしいことの1～3位の合計比率について、加重平均をとって時系列で比較すると、平成24年度調査以降の上位4項目は、今回調査で順位の変動はあるものの、同じ項目となっている。令和3年度調査で1位であった「日米地位協定を改定すること」は、今回調査で2位となり、代わって「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」が1位となった。【本調査 165 頁・図表Ⅱ-4-54】

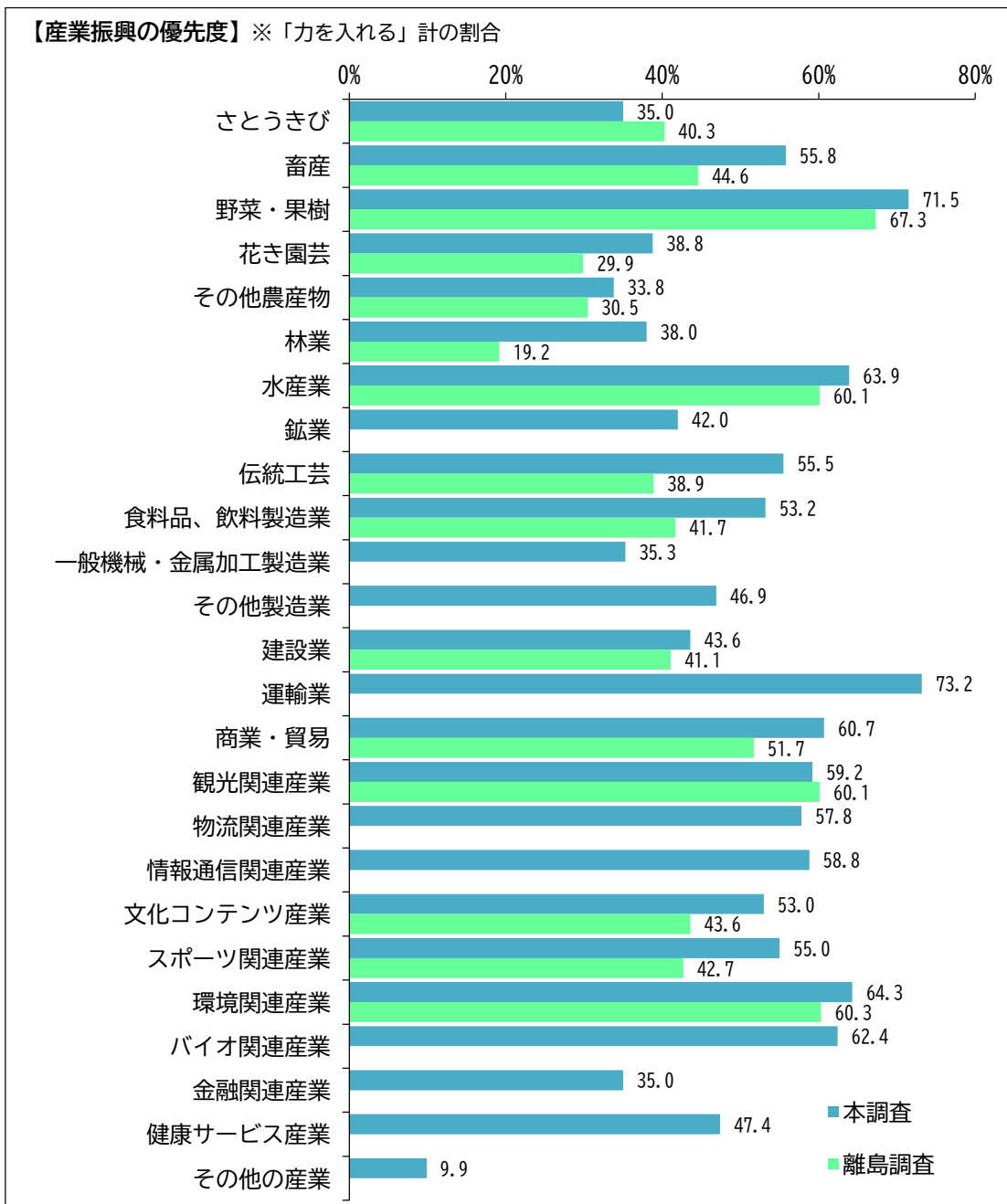


I 概要

(5) 地域経済の認識

① 注力すべき県内産業

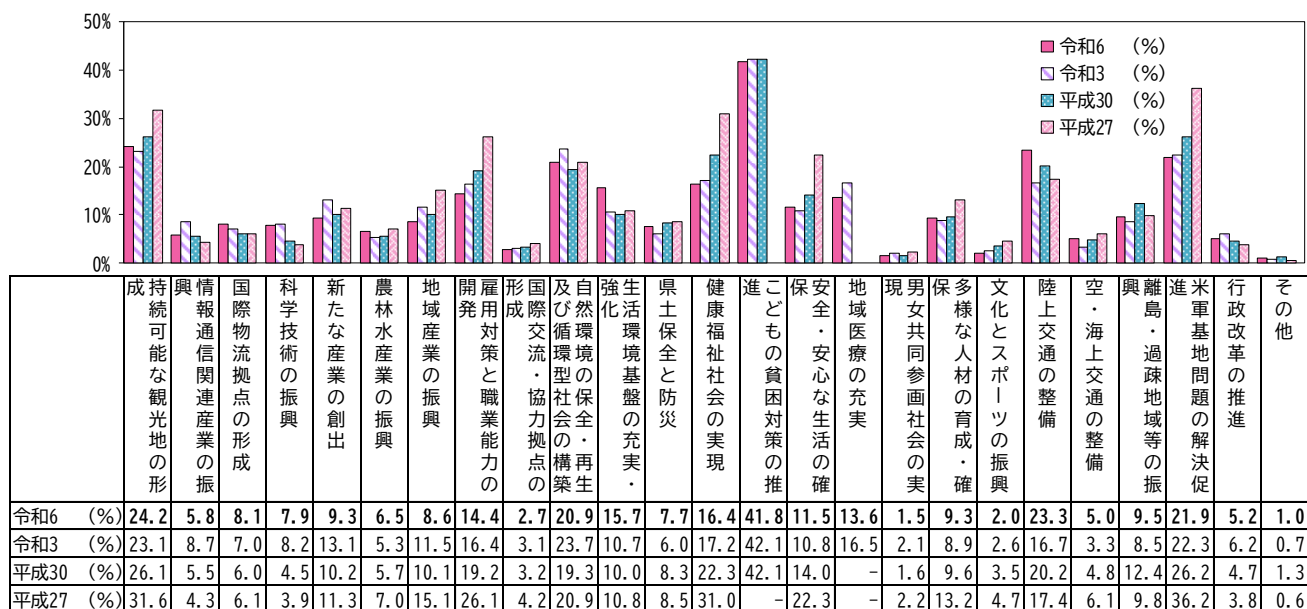
- 本調査で 25 の産業、離島調査で 16 の産業について注力の度合を5段階に分類してたずねた。「特に力をいれる」、「もう少し力を入れる」を合わせた「力を入れる 計」は、本調査では「運輸業」、「野菜・果樹」が7割を超える。離島調査では、「野菜・果樹」が7割弱となっており、次いで「環境関連産業」、「水産業」、「観光関連産業」が6割となっている。この他、本調査では、「環境関連産業」、「水産業」、「バイオ関連産業」が上位5位となり、離島調査では、「観光関連産業」、「商業」が加わる。【本調査 174 頁・図表Ⅱ-5-2、離島調査 306 頁・図表Ⅲ-3-2】



※本調査・離島調査で一部選択肢が異なる

② 重点的に取り組むべき施策

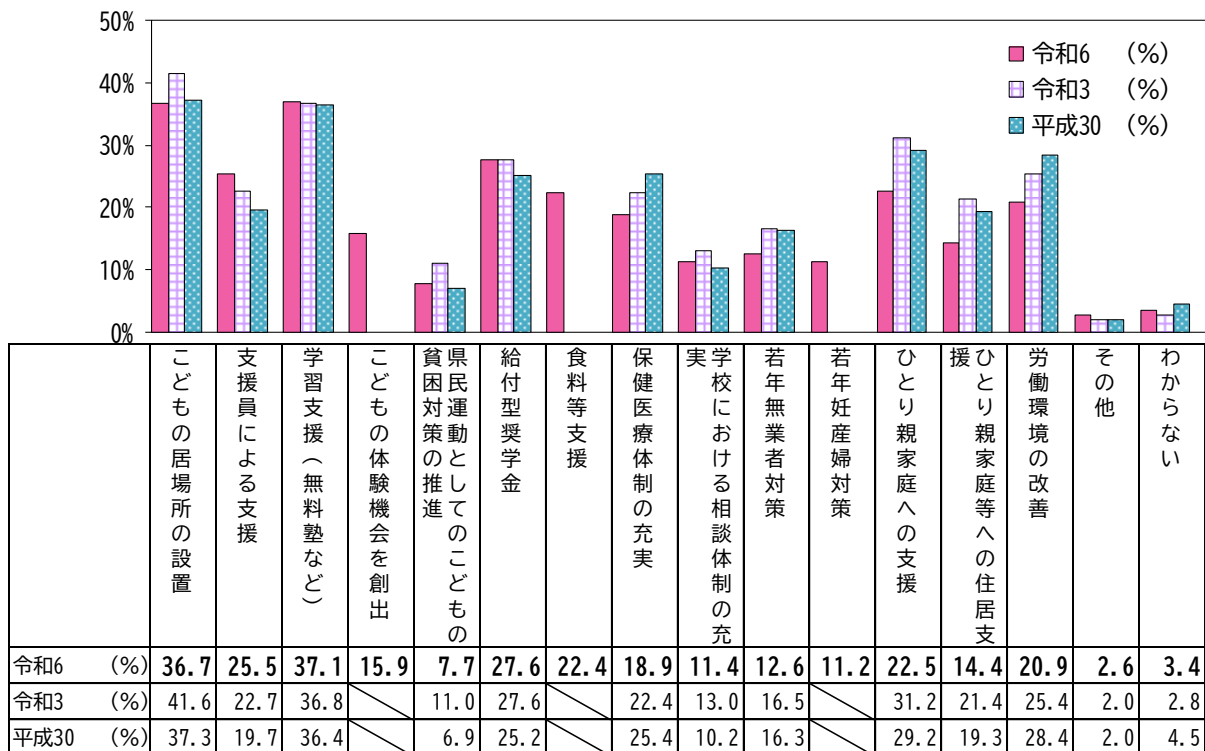
- 県の施策として重点を置いて取り組むべきことの1～3位の合計比率は、「こどもの貧困対策の推進」が4割と最も高く、次いで「持続可能な観光地の形成」、「陸上交通の整備」、「米軍基地問題の解決促進」、「自然環境の保全・再生及び循環型社会の構築」が2割台で続く。【本調査 177 頁・図表Ⅱ-5-5】
- 時系列でみると、「陸上交通の整備」、「生活環境基盤の充実・強化」、「国際物流拠点の形成」等の割合が増加している。【本調査 178 頁・図表Ⅱ-5-6】



I 概要

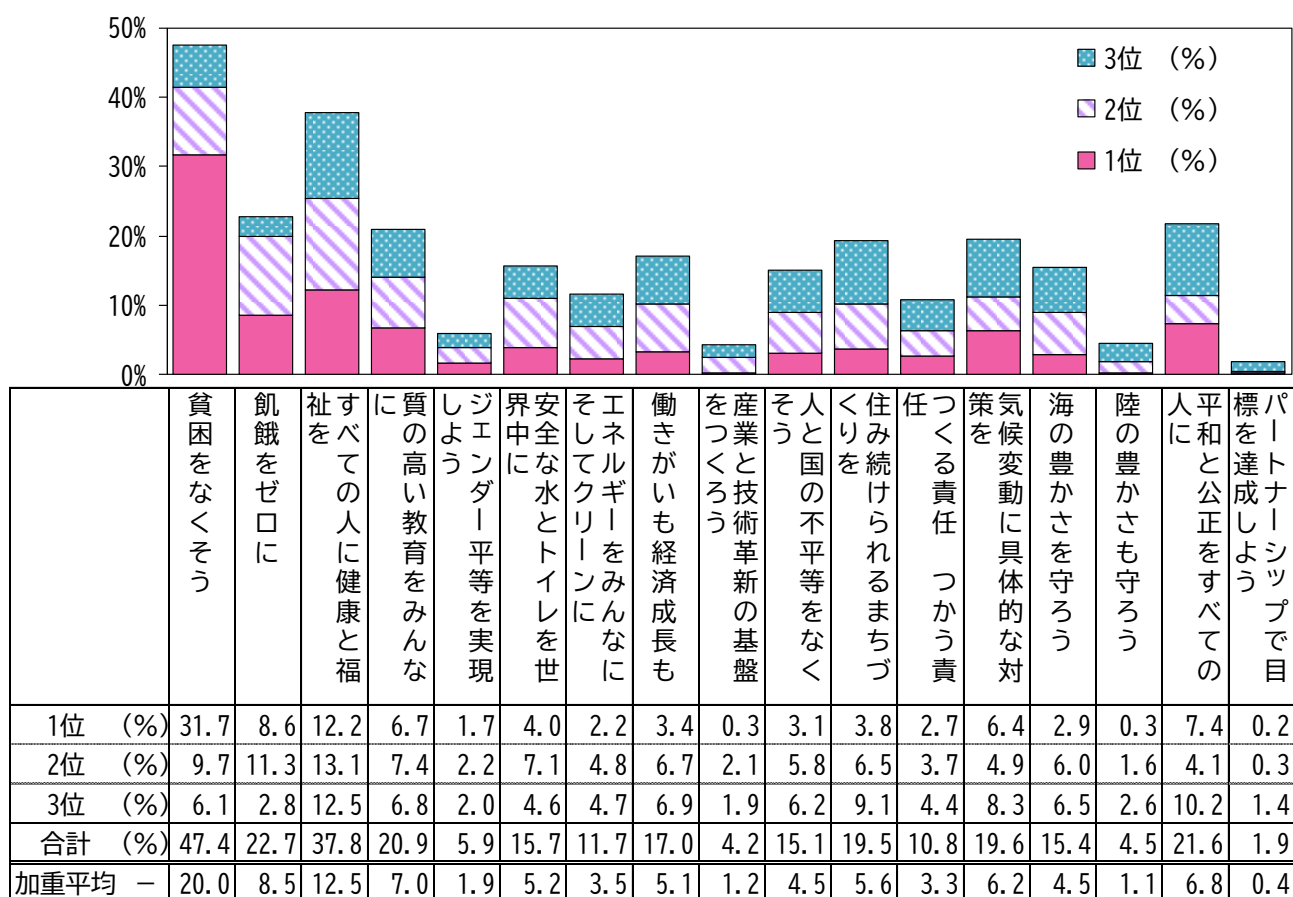
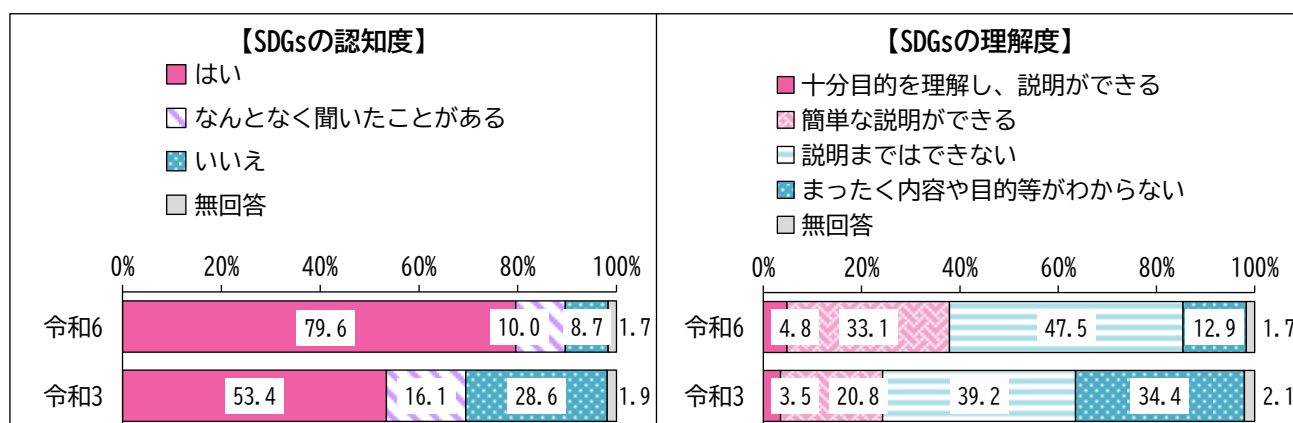
(6) こどもまんなか社会の実現

- 『こどもの貧困問題に対する取組』の1～3位の合計比率は、「学習支援(無料塾など)」、「こどもの居場所の設置」が4割弱となっており、次いで、「給付型奨学金」の割合が3割弱となっている。【本調査 191・図表Ⅱ-6-16】
- 時系列でみると、平成30年・令和3年度調査では、「こどもの居場所の設置」が1位だったが、今回調査では「学習支援(無料塾など)」がもっと高くなっている。【本調査 192 頁・図表Ⅱ-6-17】
- こどもの有無では、こども有では「学習支援(無料塾など)」が最も高く4割半ばとなるが、こども無では「こどもの居場所の設置」が最も高い。【本調査 192 頁・図表Ⅱ-6-18、193 頁・図表Ⅱ-6-19】
- 『こどもの貧困問題の解消に向けた取組』の1～3位の合計比率は、「企業による雇用促進」の割合が4割半ばと最も高く、次いで「労働関係団体による労働条件改善に向けた取組」が4割強、「個々の企業・団体による経済的支援」、「福祉関係団体による子育て支援や生活支援」、「個々の企業・団体による生活支援」が2割台で続いている。【本調査 201 頁・図表Ⅱ-6-35】



(7) SDGs の取組

- 『SDGsの認知度』について、認知している回答(「はい」と「なんとなく聞いたことがある」の合計)は、9割弱となっており、令和3年度調査の7割から2割の増加がみられた。【本調査 211 頁・図表Ⅱ-7-1】
- 『SDGsの理解度』について、理解している回答(「十分目的を理解し、説明ができる」と「簡単な説明ができる」の合計)は4割弱を占め、令和3年度調査から1割の増加となった。【本調査 213 頁・図表Ⅱ-7-6】
- 『SDGsの重点取組事項』については、「貧困をなくそう」が5割弱と最も高く、次いで「すべての人に健康と福祉を」が4割弱、「飢餓をゼロに」、「質の高い教育をみんなに」、「が2割強と続いている。【本調査 219 頁・図表Ⅱ-7-21】

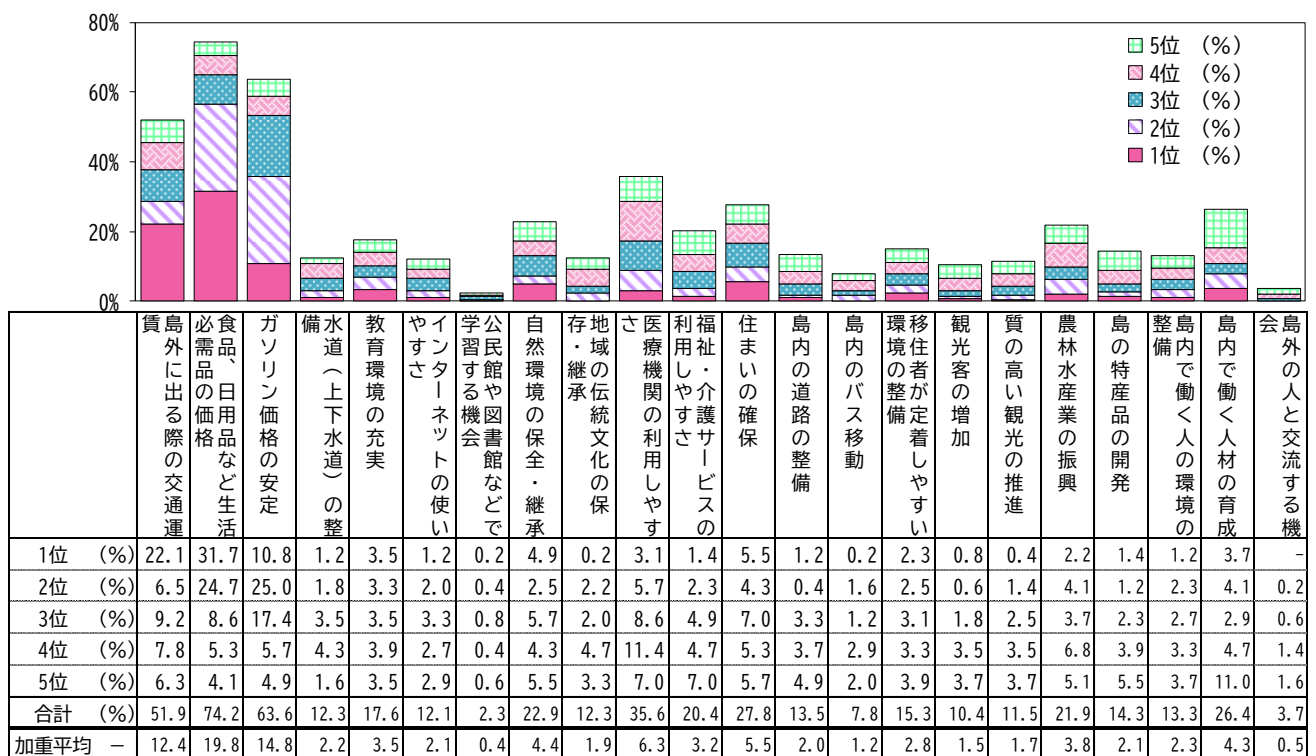


I 概要

(8) 離島振興施策

① 離島振興施策に対する評価・重点的に取り組むべき施策

- 4、5年前と比べた『離島振興施策に対する評価』について、「極めて良くなった」と「良くなった」の割合の合計は、「(16)観光客の増加」で4割強と高く、次いで、「(6)インターネットの使いやすさ」が4割弱、「(1)島外に出る際の交通運賃」が3割弱となっている。一方「悪くなった」と「極めて悪くなった」の割合の合計は、「(3)ガソリン価格の安定」、「(2)食品、日用品など生活必需品の価格」が8割前後となっている。【離島調査 309 頁・図表Ⅲ-4-1】
- 『重点的に取り組むべき離島振興施策』の1～5位の合計比率については、「食品、日用品など生活必需品の価格」が7割半ばと最も高く、「ガソリン価格の安定」が6割半ばと続き、「島外に出る際の交通運賃」が5割となっている。次いで、「医療機関の利用しやすさ」、「住まいの確保」となっている。【離島調査 332 頁・図表Ⅲ-4-68】



② 離島の人口増加対策に対する認識

- 離島の『人口増加対策として必要なこと』の1～3位の合計比率は、「就職支援・働く場の創出」、「物価の安定」の割合が4割前後と高く、次いで「住まいの確保」が3割半ばとなり「出産・子育て環境の整備」等が3割弱で続く。【離島調査 341 頁・図表Ⅲ-4-85】
- 『島外からの移住者受入れについて』の割合は、「非常に重要である」の割合が4割と高く、次いで「ある程度重要である」が3割半ばとなっており、両方を合わせると7割半ばが移住者の受入れを重要と考えている。【離島調査 350 頁・図表Ⅲ-4-102】
- 『島外からの移住者定着のための協力意向』の割合は、「協力してもいい」の割合が4割と最も高く、「是非協力したい」の割合を合わせると、5割半ばが移住者定着のために協力しても良いと考えている。【離島調査 352 頁・図表Ⅲ-4-107】

